



新年度に望んで

所長 田村 眞通

日頃からの当所に対する皆様のご協力、ご支援に感謝申し上げます。

4月より新年度となりますが、新規事業はもとより、継続事業についても心新たに推進していきたいと考えています。

当所は陸奥湾を中心とする海洋環境調査と沿岸水産資源維持増大のための技術作りに主眼をおいて事業を展開しています。

陸奥湾はご承知のとおり平館と脇野沢との間の狭い水域で外海と接する内湾でホタテガイ産業の盛んな海域であります。ひとたび汚染が進めば回復には多大な労力と時間がかかることから陸奥湾の環境の状況については十分注意を払って把握していきたいと考えています。

一方、本県の基幹産業であるホタテガイ産業であります。採苗から出荷にいたるまで自然を相手に営まれています。したがって、環境の状況やホタテガイの状況を速やかに関係漁業者に伝達することにより自然の力に負け、順調な生産を阻害されないよう努力していきます。

また、海産魚類の種苗を作り、対象とする資源を増やそうとする栽培漁業推進のための基礎となる種

苗量産技術の開発に努めています。加えて、昨今、沿岸の漁業者は高齢化してきており、あまり沖に出ないで漁業が営めるよう極沿岸の海藻を中心とした磯根資源の増養殖手法の開発にも取り組んでいます。

平成18年度の事業をみますと、懸案だった陸奥湾自動観測ブイの更新工事も本年で2年目を迎え、12月までには完成し、新しいシステムとなります。

また、各部より詳しい事業紹介があると思いますが、新しい事業としてはほたて貝部の「美味しいホタテガイ生産手法開発試験」「生き生き水産物流通モデル支援事業」、魚類部の「うすめばるトータルプラン推進事業 資源増大技術開発」「きつねめばる資源増大技術開発事業」「海産魚類防疫巡回指導事業」、磯根資源部の「磯焼け対策実証調査」「ほんだわらが育む豊かな海づくり試験」をスタートさせます。

これまでの仕事の展開は理論を作ってしまうと終わりの感がありましたが、さらにその理論の普及、実践にまでを見据えた展開がこれからは必要と考え、努力していきたいと思っています。

今後、漁業者の方々の意見も入れて仕事を進めていきたいと考えていますのでご要望やご意見がありましたらお寄せください。